

週報 第3324回

会長 杉本 憲一 副会長 中 透
幹事 細川 嘉則 SAA 川崎 久典

例会場 ホテルレイクアルスターアルザ泉大津
TEL 0725-20-1121
例会日時 毎週金曜日12:30~13:30



事務局 〒595-0062 泉大津市田中町10-7 泉大津商工会議所3F
TEL.0725-21-9500 FAX.0725-21-9501
メールアドレス info@izumiotsu-rc.org
ホームページ http://izumiotsu-rc.org



今週の例会 (2026年2月6日) 第3324回

■ プログラム

クラブフォーラム

西田 佳郎 国際奉仕部門担当理事
「地区補助金事業 寄贈品

「健口くん」で健康寿命をのぼそう」

泉大津市 高齢介護課長 吉野 久絵 様
高齢介護課 長寿推進係長 清水 典子 様
高齢介護課 長寿推進係 歯科衛生士
福本 伸子 様

■ 次週のプログラム

2月13日：特別卓話
大阪府議会議員 大橋 一功 様

■ 今後の予定

2月20日：卓話担当 今井 康隆 会員

■ 祝 誕生日

なし

■ 今月のロータリーソング

四つのテスト

今月の歌

ペチカ

雪の降る夜は 楽しいペチカ
ペチカ燃えろよ お話しましょ
昔 昔よ 燃えろよペチカ

■ 先週の例会

会長の時間



杉本 憲一 会長

今月は職業奉仕月間です。

ロータリークラブにおける職業奉仕とは、ロータリアンが自身の職業を通じて高い倫理基準を保ち、社会に貢献することを指します。これはロータリーの五大奉仕部門の一つであり、ロータリーの活動の根幹をなすものです。

職業奉仕としての職業を通じて地域社会に貢献したり、環境問題に取り組んだりする活動も挙げられます。日本国内では、人口減少、少子高齢化、地域経済の衰退と、地方が抱える課題は山積みです。しかし、そんな中でも、地域活性化に成功し、新たな活力を

生み出している企業が数多く存在します。
 その中でも地域活性化に成功している企業を一社紹介します。

創立 20 周年を迎えた、株式会社ユーグレナは、バイオテクノロジーを活用して持続可能な社会実現を目指す企業です。

特に、ミドリムシ（ユーグレナ、昆虫ではなく、植物と動物の両方の性質を持っている微細藻類）の商業化に成功し、健康食品や化粧品、さらにはバイオ燃料の製造に至るまで、幅広い分野での事業展開を行っています。

主な取り組みとして、沖縄県の離島でのユーグレナの大規模な養殖プロジェクトがあります。このプロジェクトでは、地元の漁業者と協力し、ユーグレナの養殖を通じて新たな雇用を創出し、地域経済の活性化を図っています。

特に、貧困削減や健康増進、環境保護といった目標に対して、具体的なアクションを起こし、地域社会と共に成長するモデルを構築しています。

また、ユーグレナは、持続可能な開発目標（SDGs）への貢献にも力を入れています。バイオ燃料の開発を通じて、環境負荷の低減に貢献しており、SDG 13「気候変動に具体的な対策を」を実現するための先進的な取り組みを行っています。

特に、貧困削減や健康増進、環境保護といった目標に対して、具体的なアクションを起こし、地域社会と共に成長するモデルを構築しています。

SDGs は、2030 年までに持続可能な社会を実現するための 17 の目標を掲げており、企業がこれらの目標に取り組むことは、地域社会の発展だけでなく、企業自身の持続可能な成長にも寄与します。

幹事報告

細川 嘉則 幹事

和泉ロータリークラブ例会変更のお知らせ
 2月11日(水)は祝日休会。

委員会報告

- 本日例会終了後、くすのきの間にて委員会ございましたので、関係者の方はよろしくお願い致します。
 (西田 佳郎 国際奉仕部門理事)
- 来月18日(水)泉大津市役所で献血事業があります。今日皆様にポスターとチラシを配布させていただきましたのでご活用下さい。参加ご協力いただける方、用紙に名前と参加時間帯をお書き下さい。2月18日(水)10:00~12:00/13:00~16:30となっておりますので、皆様のご参加よろしくお願い致します。(今井 克範 社会奉仕部門理事)

■ ビジター

なし

■ 出席報告

会員数40名 出席免除 0名

月日	出席数	欠席	補充	出席率
1/30	33名	7名	—	82.50%
1/16	30名	10名	4名	85.00%

■ メークアップ

榎本(1/21 ワールド大阪ロータリーEクラブ)
 南出、小野寺、白谷(1/15 70周年記念事業)

■ ニコニコ箱

- ・本日 川端会員、卓話よろしくお願ひします(杉本)
- ・川端会員、本日の卓話よろしくお願ひいたします(細川)
- ・川端様、本日の卓話よろしくお願ひします(川崎)
- ・お誕生日お祝ありがとうございました(藪野)

ニコニコ箱合計	15,000円
累計	413,500円

■ お誕生日



松村 泰英 会員(4日)



卓話担当 川端 徹 会員

合理的配慮という言葉をご存じでしょうか？2016年に障害者差別解消法という法律が制定され、それは不当な差別的取り扱いの禁止の義務化と合理的配慮の提供の義務化が明記されており、障害のある人が社会の中で生活する上で生じるバリア(障壁)を取り除くために、企業や行政、学校などが、その人それぞれの障害特性や状況に合わせて、個別に必要なかつ適切な修正や調整を行うことです。これまで自治体に適用されていましたが、2024年4月から法改正により、民間事業者によるこの対応が義務化されました。主なポイントは以下の通りです。

1. 合理的配慮の目的

障害のある人が、障害のない人と平等に「教育、就業、その他社会生活」に参加できるようにすることです。「かわいそうだから特別扱いする」という慈善活動ではなく、「人権」の観点から権利を守るための対応です。

2. 具体的な事例

物理的な環境の調整、情報・コミュニケーション、ルールの柔軟な変更など多岐にわたります。物理的環境の調整として車いすの利用者のために、段差に携帯スロープを渡す。高い場所に陳列された商品を代わりに取って渡す。受付のカウンターを車いすでも使いやすい高さにする。

コミュニケーションの配慮として、聴覚障害がある方に対して、筆談、読み上げ、手話などで対応する。視覚障害がある方に対して、資料の読み上げや文字の拡大をする。知的障害がある方に対して、絵や写真を用いて、ゆっくり丁寧に説明する。

ルール・慣行の変更として、身体の負担を軽減するため、診察の順番を待合室の別の場所で待てるようにする。精神障害のある方に対して、症状の「波」に配慮し、休憩時間を柔軟に調整する。

3. 「過重な負担」がない範囲で

合理的配慮は、事業者に対して過度な負担(重すぎる費用や体制への無理)を課さない範囲で求められます。そのため、何が「合理的」かは、相手の希望、事業者の状況、対応の必要性などを踏まえて、当事者間での対話(建設的対話)を通じて決めることが重要です。

4. 2024年4月からの変更点(法改正)

これまでは民間企業は「努力義務」でしたが、2024年4月1日からは「法的義務」となりました。もし障害のある人から配慮の要望があり、対応が難しい場合でも、ただ断るのではなく、理由を説明し、他の方法を検討するなど、話し合いを重ねる必要があります。

5. 注意点:特別扱いとの違い

合理的配慮は、本人が自立して活動するための「必要な支援」であり、障害のない人との「不平等」を是正するものです。

合理的配慮:その人固有の不自由を取り除く(例:車いすの方にスロープを置く)

特別扱い:障害者の有無は関係なく必要のない範囲まで過剰に優遇する

合理的配慮は、障害のある人とない人が等しく共生する社会を目指すものです。

私は大阪府内科医会の理事を務めており、地域の成人診療科医からみた移行期医療について明日、研修会があり講演を行います。当院でも身体に障害の持つ患者さんや、知的障害のある小児慢性特定疾病の患者さんが、大人になっても小児科医がずっと診療していることが少なくなく、現在、成人診療科にトラジションする成人移行が問題となっており移行期医療として注目されています。当院でも小児科から紹介いただき通院されますが、精神発達遅滞の患者様が待合室で待てないので、駐車場の車内で待っていただくか、当院の多目的ホール(一隅を照らす庵)でお待ちいただき一番最後の診察のタイミングで来院してもらっています。これも合理的配慮です。

昨年11月9日、シーパsparkで開催されたGOフェスについてお話をさせていただきます。当日はあいにくの雨天ながら集客・参画は比較的良好でした。子供様から成人、高齢者の方、それから障害のある方、認知症の方など含めたすべての方々が一緒になってワクワクする楽しいイベントしようという目的で健康と幸福を願い、共生社会を実践する「健幸×共生」がスローガンです。

メディGOというリハビリテーションと栄養のデイサー

ビス事業を行っている代表の兼光 信也氏が、我々、医療介護の連携を通じて地域活動を行っている関係者に声をかけ、賛同する方々が集まり、一般社団法人GOフェスを立ち上げました。実は2028年に夏フェスなどのライブ会場として有名な、泉大津フェニックスで1万人集めるような大きなフェスをしようという目標を掲げ、その第一回目が今回のGOフェスです。私も立ち上げ時の理事として声かけていただき参加していますが、気がつけば副代表になっております。当ロータリクラブの中では、岡本笑明会員と今井克範会員もメンバーとして一緒に参加してもらっています。LINEのメーリングメンバーをみますと70名ぐら이가スタッフ、関係者、ボランティア協力参加等で参入しており、人から人へ繋がり拡大し大きなイベントとなりました。従来開催されている夏フェスと同じようなイベントだと意味がないので、障害の方、認知症の方など含めすべての人がバリアフリーで共生社会を実現するという趣旨で3年後に開催する予定です。

GOフェスのプログラム構成としてメインステージでは、①シニア向けウェディングショー(未挙式者のセレモニー演出で参加者募集)、②「着物で世界をつつみ込めー障害×Life storiesー」着物ファッションショー(障害当事者が主役に立つ舞台演出)、③だんじり認知症サポーターの輪トークショー(笑って学ぶ!だんじり流・認知症寸劇)、④スペシャルトークショー(災害時はどうなる?シニア、障害者は)などが行われました。

その他様々なブースがあり、健幸・共生エリアでは、医療、介護、認知症相談コーナー、フレイル・健康チェックコーナー、合理的配慮ツアーでは会場内を車椅子で回遊し、配慮体験・理解促進を行いました。

シーパスパークの各所では、さまざまなイベントが一見すると淡々と、日常の延長のように行われていました。しかしその裏側では、合理的配慮をはじめ、環境整備や設備面への配慮が行き届いた準備が入念に重ねられ、関係スタッフ一人ひとりにまで、その意識がしっかりと浸透していました。

NPO法人自立生活センターの代表の三井孝夫氏が、理事(副代表)として参加していただいたことで、このイベント自体の方向性がより明確となり、障がいの方々を含めた共生(社会)の実現を本気で行っていかうという意識のもとで開催できたかと思っています。イベント開催の準備段階から、関係者、スタッフ向けに合理的配慮説明会を行い、資料提供もしていただきました。障害種別ごとの対応マニュアルを事前共有し、現場運用に活用いたしました。

当日は悪天候で雨が強く降る時間帯もありましたが、終盤には雨も上がり、ご支援いただいた法人・企業のロゴを掲げた横断幕を手に、感謝の意を表すとともに、参加者全員で記念の集合写真を撮影し、連帯をあらためて確認しました。

GOフェスは当ロータリクラブにも後援いただいております。2028年の泉大津フェニックス開催に向け、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。誠にありがとうございました。

